

今号の内容	
・協議会の動き	1
・各活動グループの動き	2
・地域のトピックス	2
・生き生き伊深人（渡辺 幸子さん）	4

ホームページアドレス: <http://ibukamachi.com>

(左: 南天の群生 大洞で)

新年あけましておめでとうございます  
本年もよろしくお願ひ申し上げます

伊深まちづくり協議会 委員一同



## ■ 協議会の動き

### 自治会館利用のあり方、「伊深日記展」への対応などについて協議を進めています

11月、12月の定例会では、自治会館利用のあり方、「伊深日記展」への対応などを中心に協議を続けたほか、保育園の統合に伴う名称の件などについて報告を受けました。

#### ■ 文化祭バザー収益の処理について

○今年度はもち米の売り上げが多かったことから収益金を有効活用してはどうかと意見が出ており、具体的な方法はもうしばらく検討することになりました

#### ■ “けふ野辺を歩きて”佐野一彦の「伊深日記」展への対応について

○文化の森主催で12～2月に「読む会」「歩く会」などが開催されるため、当協議会としても一部催し物に後援するなど極力応援していくことになりました。



○11月19日に市長へ要望書を提出することになっており、これに伴う課題整理を行いました。

#### ■ 自治会館利用に関して

○11月6日に市の関係職員をオブザーバーに招き、第2回検討部会を行いました。専門家の調査結果がまだ出ていない状況で、登録有形文化財への指定の可能性も検討されているようですが、利用者の安全確保を優先し、今後、行事は交流センターで行う方向に切り替えていくことになりました。

#### □ 保育園統合に伴う名称決定の件

○12月17日に名称選考委員会が行われ、52点の応募から、委員会としては園児にも親しみやすい「ほくぶ保育園」を採用したことが報告されました。今後、市議会へ上程するなど所定の手続きを経て正式決定される予定です。

#### □ その他

○11月30日に行われる滋賀県甲賀市からの視察受け入れなどについて対応を協議しました。

○12月4日に行われる「飛び出せ市長室」への対応を協議しました。

## ■ コミュニティ建設推進委員会

## ■ 各活動グループの動き

協議会内で個別テーマに取り組んでいる活動グループの最近の動きを紹介します。  
(代表者の敬称略)

### 子どもの居場所づくりグループ 代表：佐野 綾目

○引き続きのびのびと遊びながら活動しています。

### 小学校稲作体験支援グループ 代表：佐野 綾目

○12月18日にもちつき体験を支援し、今年の手配を終了しました。



### 保育園畑作体験支援グループ 代表：大矢 伸司

○11月21日にいちご苗の植え付け、12月16日・25日に大豆の収穫体験を行いました。



### 環境美化グループ 代表：井上美恵子

○短大下の花壇を毎月第1日曜日に手入れしています。

※その他の活動グループは特にありませんでした。

## ■ 地域のトピックス

地域内での最近のトピックスを紹介します

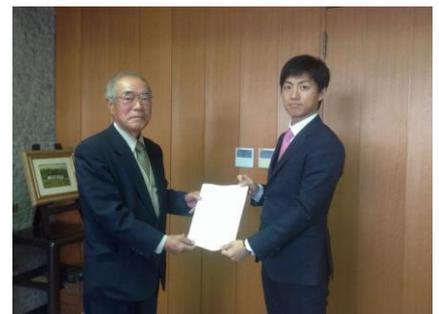
### 11月4日、伊深町文化祭が開かれ、当協議会はもち米・いちご苗を販売しました

秋の一日を楽しく過ごしてもらおうと、この時期に開かれている文化祭が今年も小学校体育館周辺で行われ、出店、ホール展示、ステージ発表のそれぞれの部で趣向をこらした出し物が勢ぞろいしました。当協議会も小学校・保育園での体験学習を継続できるように出店コーナーで「もち米」「いちご苗」を販売させていただきました。地域の方々にはご協力ありがとうございました。



### 11月19日、市長へ要望書を提出しました

来年度の予算編成を前に、自治会要望と合わせ、当協議会としての最重要項目に絞り、藤井市長あてに要望書を提出しました。要望したのは「コミュニティ施設の建設に対する要望」、「小学校区見直しに関する要望」の2項目で、市側からは「財政のなかでも市の経営努力で削減できない経常経費の比重が依然として高く、厳しい財政状況にあるが、地域の実情を踏まえて対応したい」などのやり取りがありました。



## 11月30日、滋賀県甲賀市油日（こうかしあぶらひ）自治振興会様が視察研修のため来訪されました

遠路はるばる滋賀県の内陸部から純粹に研修のために来訪されました。当方からは当協議会のこれまでの活動経過などを報告したほか、先方様の関心の高かった「学校との連携」「野菜づくり講座」などについてそれぞれの代表者から詳しく説明しました。当協議会にとってこうした受け入れは初のことであり、貴重な刺激となりました。



## 12月4日、「飛び出せ市長室」でまち協委員が藤井市長と意見交換を行いました

市長からは「伊深の良さを見直しながら持続可能なまちづくりに結びつけてほしい」とあいさつがあり、まち協委員側からはこのところ取り組んでいる活動のあらましやふだん課題と感じていることなどについて率直な意見を述べました。こうして市長に直に接する機会は少なく、貴重な時間となりました。



## 11月21日、伊深・三和保育園児がいちご苗を植え付けました

## 12月16日、伊深・三和保育園児が大豆の収穫作業を体験しました

昨年に引き続き、伊深・三和保育園児がいちご苗の植え付けを行いました。新年度は統合で園児数が増えることもあり昨年より多い、約200株を植えました。春の収穫が楽しみです。

また、6月に園児たちがまいた豆が収穫時期となったため、大豆の収穫作業を行いました。2枚のシートの上で枝からさやをはずして集めたところ、軽くカゴ4杯にもなりました。この後10日ほど乾燥させた後、叩いてさやもはずし、最終的な豆に仕上げました。この豆は節分の豆まきにも使われることになっています



## 12月18日、伊深小5年生がもちつき体験を行いました

当協議会の活動グループが支援している稲作体験学習の締めくくりとして昔ながらのもちつきを体験しました。初めは慣れない手つき腰つきでしたが、しだいにリズムも安定し、いい音が響くようになりました。つき上がったもちはいんこ餅、きな粉餅に仕上げられ、さっそく児童たちがほおばり、全校児童や先生がたにも配られました。



## 12月21日、「佐野一彦さんの愛した里山を歩こう」会が開かれました

「伊深日記」展の開催に合わせ、佐野一彦さんが愛した伊深の里山を歩いてみようという文化の森などが主催、当協議会ほかが後援で行

われました。参加者約 30 人は小雨のなか、関也の道標、星宮神社、中切弘法堂など上切周辺の旧跡を見て歩き、ふだんは見過ごしてしまいうようなスポットにもそれぞれの歴史が刻まれていることを改めてかみしめていました。



## 生き活き 伊深人

地域内で生き活きと活躍されている伊深人を紹介します

第5回

渡辺 幸子さん

サチコ

上本郷/大正 15 年  
生まれ/87 歳



**Q** いつもお元気そうで何よりですが、秘訣はあるんですか？ 保育園に勤めていたのが28年、辞めてからがそれ以上の30年になりますが、生活のペースを変えないよう、規則正しい生活と運動を心がけています。食事バランスよく食べるようにし、海藻、大豆、らっきょなどは必ず摂るようにしています。

**Q** 伊深保育園ができたころから保育に携わってこられたんですね？ 伊深へ嫁に来てから勧める人があり、保母の資格を取ったんですが、伊深保育園ができる前に最乗寺の先代の御院さんと二人で子どもを預かっていたことがあり、その後加治田の光宗寺さんへ子どもを大勢連れて通っていたところ、伊深に保育園ができることになり、半年後から伊深保育園へ替わったんです。

**Q** 保育園時代の思い出は？ 8.17 豪雨が合ったとき三和にいたので、あのときは大変でした。建物のあとかたづけはもちろんです、子どもに絵を書かせると真っ茶色の絵を描く子がいたり、暗くなると泣き出したりと。でも皆さんの援助があつて復旧ができました。

**Q** ずっと単車に乗っておられましたね？ そのころは保母さんが子どもの送り迎えをされていて、

そのために「ラビット」に乗るようになったんです。当時女の人で乗る人は少なかったですよ。

**Q** 今でも卓球を毎週やっておられるとか？ 卓球は年をとってから始めたんですが、今でも毎週決まったメンバーと楽しんでいます。その前にはヨガ教室にも通っていました。今は自己流のヨガ、ラジオ体操、散歩が日課になっています。特に足が弱らないようにね。おかげで病気らしい病気はしたことがないですね。

**Q** 「太陽の家」へも引き続き通っておられるんですか？ 保育園を辞めてから10年お世話になり、そのあと20年はボランティアで毎週通っています。保育園時代の仲間や知り合いがときどきのぞいてくれるので楽しいですよ。人のことばですが「とにかく人と関わることが一番の老化防止」だと思って積極的に外に出るようにしています。



◀今でもときどき太陽の家で販売するためにボランティアで作り続けている「お手玉」を手に。

『ひ孫に遊び方を教えていたら今では立場が逆転してしまって』とうれしそうに話されました。

伊深まちづくり協議会だより 第13号

2014. 1. 1発行

発行責任者 伊深まちづくり協議会 会長 篠田 洋

事務局 美濃加茂市伊深町 909 伊深交流センター内

電話 0574-29-1395

※ ご意見・お問い合わせもこちらまで